

## 「最初の一滴」から波及する日本一ブランド推進医療・健康ツーリズム連携支援計画

### I 必須記載事項

#### 1 連携支援事業の目標

##### ①支援対象とする事業分野 観光分野

和歌山県が定める基本計画の「5 地域経済牽引事業の促進に当たって生かすべき自然的、経済的又は社会的な観点からみた地域の特性に関する事項」に記載されている「(1) 地域の特性及びその活用戦略」【観光分野】⑦本県における世界遺産や有名な温泉地など豊富な観光資源を活用した観光分野の「外国人観光客の誘客については、増加するFIT（外国人個人観光客）に対応するため、「体験型観光」を提案するなど、それぞれの国の嗜好に合わせた観光素材を提供して誘客を図る」を実現する。

##### ②地域における産学官金の地域経済牽引支援機関の連携による切れ目のない支援体制の構築

昨今、海外からの患者や健診者を受け入れる医療インバウンドを増やそうとする動きが全国的に広がってきている中で、政府が2011年に医療滞在ビザの発給を開始したことを皮切りに、日本の高い医療技術と観光を組み合わせ「医療観光」に取り組む自治体も増加している。

例えば、近隣市の医療法人では、外国人富裕層をターゲットにした人間ドックのサービスを開始した。中国の医療機関とも連携し、国内外に周知を行っている。特に宿泊を伴うコースでは、地域の民宿と提携し、高級魚のクエやアユなど地元ならではの料理を堪能できるプランが好評である。

このように、地域において医療分野と観光分野を組み合わせサービスが出始めている中、湯浅町では日本遺産認定を機に、湯浅町が推進する「美味しい日本遺産」を主軸に、ユネスコ無形文化遺産「和食」の重要な調味料である醤油や和歌山県産の新鮮な食材を活かしたヘルシーグルメを堪能する「湯浅まちごと醤油博物館」の食べ歩き観光と医療インバウンドを組合せることによって、健康ツーリズムを推進する計画がある。

また、湯浅町はインバウンド需要を着実に取込むため、平成29年度に中華人民共和国（大連・瀋陽）において、県内医療機関とともに海外プロモーションを実施。中華人民共和国（大連・瀋陽）からのインバウンドをメインターゲットと位置づけ、大連市内に「湯浅まちごと醤油博物館推進連絡所」を設置し、現地の訪日観光客への情報発信及び情報収集など海外プロモーションオフィスとして位置付けた。

今後、医療分野と観光分野のそれぞれの事業者が更なる連携を行うとともに、域内・域外からの事業参入や、新商品・新サービスの開発が期待されるが、こうした動きに対し、支援を実施する産学官金医それぞれの機関においては、以下のような課題がある。

産：観光分野のビジネスモデルに対し、一定の課題解決に必要な知見やノウハウを有する産業支援機関であるが、他方で健康・医療の観点からどのような食事や運動を提供すればよいかの知識や指導ノウハウは有していない。

官：本町には公立病院が存在せず、行政側に病院経営等のノウハウがない。  
 学：地域内に専門的知識を有する機関が存在せず、医療ツーリズムの構築にあたり、観光に基点を置いたまちづくりに関する専門的知見が必要。  
 金：医療分野における規制等、需要と供給以外の要素も踏まえたコンサルティングや投資、融資が必要な中で、医療機関と金融機関の連携は必要不可欠。  
 医：セカンドオピニオンや多言語対応コストばかり発生する一方で、受け入れまでの確率が低い。

このように、産官学金医それぞれの機関単独では、事業者の支援にかかる課題が多いことから、これまでのネットワークを活かしつつ、各機関が連携し、システムティックで切れ目のない支援体制を構築する。

### ③地域の各地域経済牽引支援機関の役割と責任の明確化

各地域経済牽引支援機関の役割と責任を明確化することによって、効果的に連携支援事業を実施する

### ④地域内で不足する支援機能の地域外からの補完

高度医療技術を活かした医療インバウンド需要を取込むために、医療ツーリズムの構成要素である訪日観光客向けの食材の選定、レシピ開発及びメディカル面のサポート等について、社会医療法人黎明会が支援を行う。

また、「学」が有する技術及びノウハウや、「金」が有する資金面での支援については、「湯浅町・まち・ひと・しごと創生推進会議」がその役割を担うが、より専門的見地からの指導については、執行機関である和歌山大学及び紀陽銀行からの支援により補完を行う。

### ⑤想定する支援件数

地域経済牽引支援機関の連携により、紀北地域における観光分野の地域経済牽引事業を支援する。

目標件数	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度	H34 年度	計
	5 件	8 件	10 件	15 件	20 件	58 件

## 2 連携支援事業の内容及び実施時期

湯浅町における醤油関連等の施設や新鮮な食材等を組み合わせた食べ歩き観光等の観光プログラムと、医療法人における観光サービス付きの人間ドック等の特性を組み合わせ、域内における事業創出と域外からの需要獲得につなげるとともに、湯浅町を中心とするネットワークを活用し、ビジネス支援の枠組みを構築する。

本枠組みが支援する地域経済牽引事業について、創業や新事業立ち上げ段階から事業として自走していくまでの切れ目ない支援を行うため段階別に以下の事業を実施する。

<事業初期段階>

- 1 健康レシピや運動モデルの学び事業（主に座学）  
和歌山県産の新鮮な食材を用いた、健康レシピの開発や伝統的な町並みや世界遺産熊野古道等の歩くコースを設定するなど運動につながる商品開発など、観光と健康の両方の視点でビジネスモデルを学ぶ事業を実施する。
- 2 具体的なツアー商品開発にかかる学び事業（座学及び実習）  
食と運動の組み合わせを学ぶ座学に加え、温泉や大自然の中でのヒーリングスポット等との組み合わせを検討し、体験型観光プログラムの開発を、座学及び現場での実習などで学ぶ事業を実施する。

<参入後の人材育成段階>

- 3 健康ツーリズムに係る外国語や外国文化、風習にかかる研修・セミナー事業  
インバウンド受入にあたり、それぞれの国や地域の文化、宗教、習慣等を観光事業者が学ぶ研修等をそれぞれの国・地域はどこにあるのかなどを学ぶ初級講座からクレジットカード対応等を学ぶ上級講座まで習熟度に応じて実施するにあたり助言を行う。

<実際のビジネスモデルの構築段階>

- 4 マーケティング支援事業  
健康ツーリズム需要の把握のため、web等を通じたマーケティング調査を行うにあたり、事前にインバウンド嗜好性について助言を行う。
- 5 資金支援  
新規事業展開にあたり、収支計画策定に関する助言及び資金支援の検討を行う。また、新規事業として医療・健康ツーリズムを実施するにあたりスタートアップの伴走型支援を行う。

本連携支援計画の期間は、承認を受けた日から平成34年度末までとする。

### 3 連携支援事業を実施する者の役割分担、相互の提携又は連絡に関する事項

(1) 連携支援事業を共同で実施する地域経済牽引支援機関の名称及び住所並びにその代表者の氏名並びに当該地域経済牽引支援機関の役割

	当該連携支援事業を実施する者の①名称、②住所、③代表者名	④当該連携支援事業における役割
1	1 中紀バス株式会社 2 和歌山県日高郡由良町里 480番地 3 3 代表取締役社長 高垣 太郎	4 当該連携支援事業の代表者 地域経済牽引企業として、和歌山県に承認を受けた地域経済牽引事業計画に基づき、医療・健康ツーリズム分野の産業を伸長させるため、観光事業者へのツアー構築に対する助言等の支援を行う。また、当該支援計画の進捗監理を行う。

2	1 社会医療法人黎明会 2 和歌山県御坊市湯川町財部 728-4 3 名誉理事長 北出 俊一	4 ツアー商品等の企画にあたり、メディカル面からのアドバイス等の支援を行う。
3	1 一般社団法人湯浅観光まちづくり推進機構 2 和歌山県有田郡湯浅町青木 668 番地 1 3 理事長 前田 芳宏	4 地域 DMO として観光マーケティングや戦略立案を担っている実績を踏まえ、当該事業にあつては、ニーズ調査結果等収集したデータ等を提供することで、日本遺産と医療を組合せた観光振興を支援する。また、インバウンド受入や民泊に向けた環境整備等を包括的かつ総括的にマネジメントし、必要なノウハウの提供等支援を行う。
4	1 湯浅町・まち・ひと・しごと創生推進会議 2 和歌山県有田郡湯浅町青木 668 番地 1 3 会長 中 美二	4 本組織の構成員である本会議を構成する和歌山大学が有する観光に関する専門知識や人材育成にかかわる支援を行う。また、同様に会議を構成する紀陽銀行が有する収支計画策定に関する助言や、実際の資金支援の検討により、積極的な伴走型支援を行う。
5	1 湯浅町 2 和歌山県有田郡湯浅町青木 668 番地 1 3 湯浅町長 上山 章善	4 当該支援計画の総合窓口としての役割を果たし、地域経済牽引支援機関に対して電話やメール等で情報共有を行うなど円滑な支援に向けたサポートを行う。

(2) 連携支援事業を共同で実施する地域経済牽引支援機関の相互の提携又は連絡に関する事項

連携支援事業実施にあたっては、湯浅町が当該連携支援事業の窓口となり、事業者からの相談等を受ける。相談は情報共有の了解を得た後、各地域経済牽引支援機関に対して電話やメール等で情報共有を行うとともに、相談内容を踏まえ、どの機関が支援を行うか検討する。内容が観光に関するものは、一般社団法人湯浅観光まちづくり推進機構推進機構が、メディカルツアー等の商品・サービスに関する内容は、弊社及び社会医療法人黎明会が支援を行う。湯浅町・まち・ひと・しごと創生推進会議が、専門的見地からの指導や人材育成、資金供給の検討を行い、執行機関である域外の和歌山大学や紀陽銀行とともに支援を行う。

また、切れ目なく、効率よく効果的に支援を行うため、地域経済牽引支援機関による仮称医療ツーリズム推進地域連携支援計画推進協議会を立ち上げ、担当者連絡調整会議を設置し、3ヶ月に1回程度の定期的な会議開催、電話やメール等での随時連絡を通じ、医療インバウンドにおけるニーズや観光戦略等について情報共有を行うほか、連携事業実施方針確認を行う。

近畿経済産業局を通じて地域未来牽引企業から相談等があった場合も、適切に課題を把握し対応を行っていく。

## II 任意記載事項

### 1 補助金等交付財産の活用に関する事項

--

(備考)

- 1 記名押印については、氏名を自署とする場合、押印を省略することができる。
- 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。